

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年2月)

～インバウンドの増加や感染の沈静化で、現状判断は続伸～

- 景気ウォッチャー調査・2月調査の近畿地域の結果は、現状判断が53.6と前月比で3か月連続の上昇(+3.2ポイント)となった。好不調の目安となる50も2か月連続で上回っている。さらに、先行き判断も52.7と3か月連続の上昇(+4.1ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンドの増加傾向が続いており、百貨店やホテル等を中心に好調な推移が続いている。中国本土からの観光客はまだ限定的ながら、その他の地域からの増加が目立つ。旅行関連では、全国旅行支援の制度縮小に伴い、国内客の動きには伸び悩み傾向がみられつつも、インバウンドの増加がそれを補う形となっている。また、新型コロナの感染第8波の沈静化が人流の増加につながっているとの声も多い。
- 一方、物価やコストの上昇による悪影響は続いており、多くの業種から厳しい声が上がっている。スーパーや小売関連を中心とした、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いている。また、製造業や建設業といった企業取引関連からも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化を懸念する声が多い。
- 先行きについては、インバウンドの増加に対する期待が、百貨店やホテル、レジャー施設、観光名所などを中心に高まっている。加えて、5月上旬に新型コロナウイルスが5類感染症に移行する見込みであるのを受け、百貨店や外食、観光関連など、幅広い業種で需要回復への期待が高まっている。それに付随して、3月中旬からのマスク着用の緩和も、客足の増加につながるといった期待が大きい。
- 一方、物価の上昇に対する警戒感、足元の値上げの加速を受けてますます強まっている。スーパーや衣料品での節約志向に対する懸念をはじめ、ホテルや旅館からも、コスト上昇に価格転嫁が追いつかないといった声が聞かれる。価格転嫁については、企業関連でも厳しい声が多く、幅広い業種で収益悪化への懸念が高まっている。円安はピークアウトしたとはいえ、コストの上昇、価格の上昇に対する不安は、業種を問わず依然として高い。

「インバウンド」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(外商担当)	・ 来客数は明らかに増加傾向が顕著で、インバウンドも目立って増えている。観光バスが久しぶりに多くみられるようになっている。
		都市型ホテル(管理担当)	・ インバウンド需要が回復し、売上の増加につながっている。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設](企画担当)	・ 引き続きインバウンドが増加傾向にあり、国内の観光客も堅調に推移している。
	なやましくなっている	一般小売店[野菜](店長)	・ 全体的にインバウンドや旅行者が増えて、取引先の飲食関係も少しずつにぎわっているなど、良くなってくる。
	百貨店(売場主任)	・ 郊外店である当店では、2月の来客数が前年比で5.6%増えた一方、都心の店舗は51.1%の増加と、インバウンドの回復もあって大幅に増えた。外出が増えてきたこともあり、衣料品や雑貨の売上が前年を大きく上回っている。	

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（サービス担当）	・バレンタインフェアの催事を強化するため、期間限定の店舗を増やしたことで、売上の拡大につながっている。また、インバウンドの水際対策の緩和で海外の団体客が増え、高級ブランド時計や化粧品を中心に、好調に推移している。新型コロナウイルス感染症発生前の水準には回復していないが、来客数は前年比で約18%の増加となり、売上は約20%の増加となっている。	
		百貨店（外商担当）	・高級時計や海外ブランド品の需要が止まらない。商品が足りないだけでなく、商品によっては注文が多過ぎて予約も受けられない状況である。さらに、インバウンド売上も新型コロナウイルス感染症発生前の、約8割の水準まで回復している。	
		百貨店（マネージャー）	・物価の上昇は続いているが、全体的には好調を維持している。特に、富裕層関連では美術品や時計が好調を維持し、中間層も春の行楽や通勤関連が堅調に動いている。また、インバウンド需要が前年比で約3倍に増えるなど好調で、人流が活発になるなか、ハレの日の市場が全体をけん引している。	
		百貨店（特選品担当）	・外国人客による購入が増えているほか、来街者が大きく増えている。団体客も増え始めているが、中国本土からの動きはまだである。	
		百貨店（マネージャー）	・インバウンドを始めとした来街者を中心に、購買意欲が高まっている。来客数の増加以上に、販売量には増加傾向がみられる。	
		都市型ホテル（フロント）	・全国旅行支援の効果もあり、平均稼働率は80%台を維持している。稼働率は3か月前と同じ水準であるが、インバウンドや法人からの問合せは増えている。	
		旅行代理店（店長）	・販売額は以前の水準に全く戻っていないが、ゴールデンウィークの旅行や海外旅行の相談が増えたほか、インバウンドが戻ってきている。	
	変わらない	百貨店（企画担当）	・11～12月と比べて前年比での伸び率は改善しているが、これは主に前年のコロナ禍による影響が関係している。前年の11～12月は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていたが、1月に入って感染が拡大し、売上が減少した。一方、インバウンド関連は前月と比較して大きな変化はない。	
		百貨店（宣伝担当）	・売上は堅調であるが、その要因は韓国を中心としたインバウンド売上である。国内客の購買は、相次ぐ値上げで力強さに欠けている。	
		スーパー（店長）	・外国人観光客が戻ってきた反面、既存の国内客は値上げに対して敏感で、見切り商品などの利用が増えている。プラス材料とマイナス材料が相殺し合い、全体的にはほとんど変わらない。	
	企業関連	変わらない	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・円相場は落ち着きを取り戻しつつあるが、生活必需品はもちろん、全ての物価の上昇が止まらず、原材料費や燃料費の高騰が収益の減少要因となっている。3年以上にわたるコロナ禍に出口が見え始め、インバウンド効果なども出つつあるが、物価の上昇による悪影響を打ち消すまでには至っていない。
	雇用関連	なっている	人材派遣会社（管理担当）	・街中でも海外からの旅行者が目立ち、観光産業に活気が戻っている。それに伴い、求人数も増加している。
			新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人数に、景気の先行きを示す動きはみられない。インバウンドが回復しつつあり、旅行や観光、小売関連の求人数は増えているが、一部の業種に限られ、関西全体では盛り上がりを感じられない。新型コロナウイルスの感染第8波は収束しつつあるが、国民は既にウィズコロナに慣れており、新規感染者数の増減による影響は余りないと感じる。
変わらない		その他雇用の動向を把握できる者	・当地域の新規求人数は、前年比で19か月連続の増加と持ち直しが堅調である。近畿全体でも22か月連続の増加という状況であるが、「卸売業・小売業」、「宿泊業・飲食サービス業」などの、全国旅行支援やインバウンド需要の増加の恩恵がある業種が好調な一方、建設業が2か月連続減少、製造業が22か月ぶりの減少となるなど、一服感もみられる。原材料費や燃料費、光熱費などの高騰で、売上は増加しても利益が上がらないという企業や、価格転嫁が困難で収益が圧迫されているといった企業は引き続き多く、求人募集を見合わせる動きも始めているため、注意が必要である。	

「コロナの5類引下げ」関連のコメント(先行き判断)

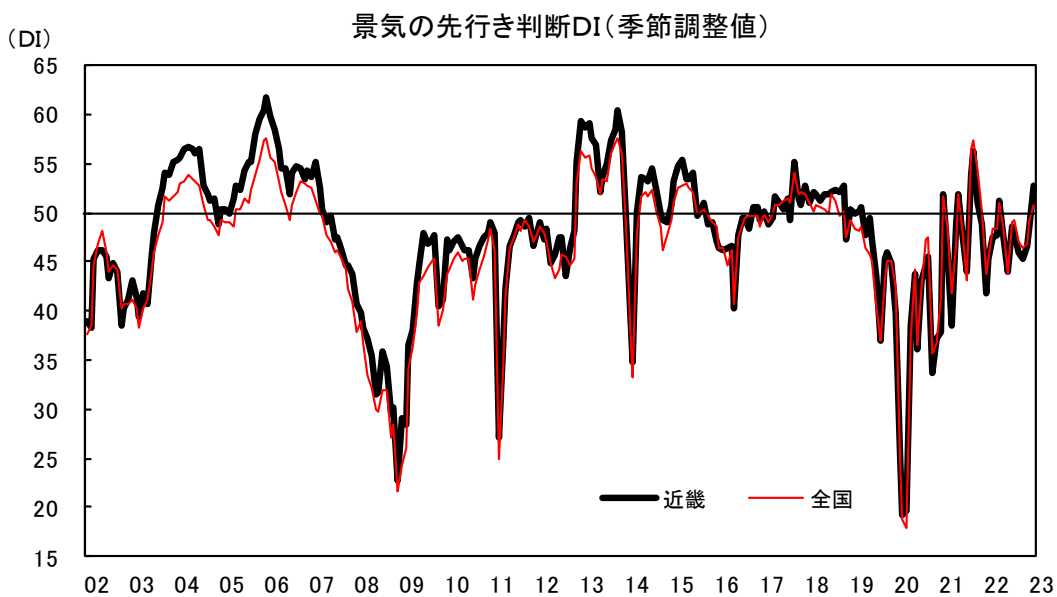
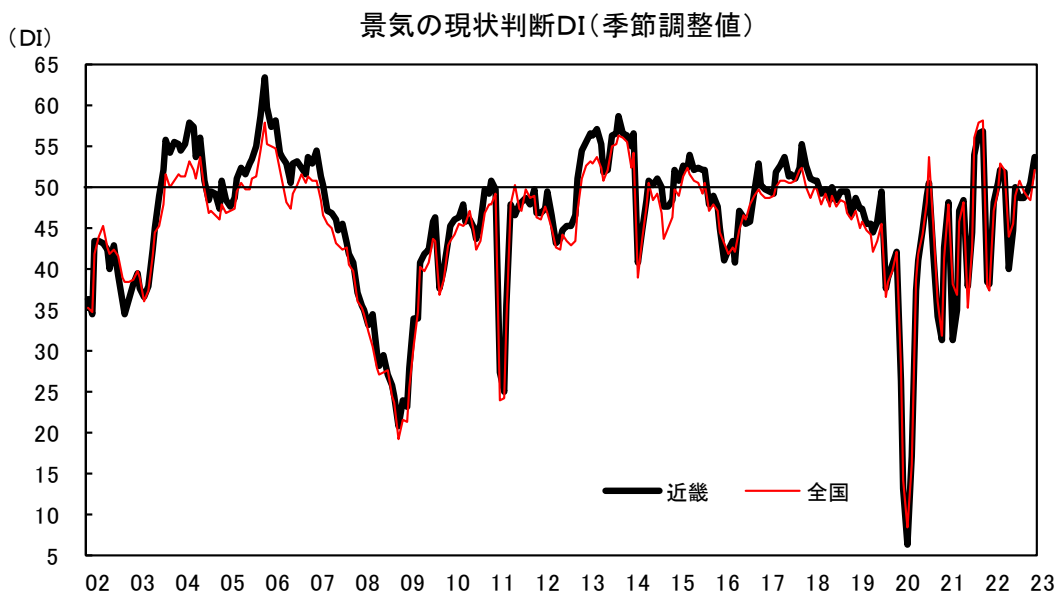
家計動向関連	良くなる	百貨店（外商担当）	・5月から、新型コロナウイルスが5類感染症に移行することもあり、中国からの旅行者がかなり増えることが予想され、売上の増加が見込まれる。円安の影響で、海外からの旅行者にとって、日本は高級品が最も安く買える場所になる。
		百貨店（特選品担当）	・中国からの入国規制などが緩和されるほか、国内でもマスク着用の緩和、新型コロナウイルスの5類感染症への移行など、外に出掛けることへの規制は間違いなく緩和が進む。
	やや良くなる	百貨店（売場マネージャー）	・食料品を中心とした価格高騰による消費マインドの低下は心配であるが、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向となっている。また、新型コロナウイルスが5類感染症に移行することあっても、消費者の購買意欲が高まると予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行など、消費を後押しする要素が多く、景気動向は上向くと予想される。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行やマスク着用の緩和に加え、これまでの反動から外出する人も増え、お金を使う機会も増えるため、今後は少し良くなってくる。

家計動向関連	やや良くなる	都市型ホテル（総務担当）	・5月には新型コロナウイルスが5類感染症に移行する。マスク着用の緩和からも2か月が経過することで、更に人流が活発化するが、以前の水準には戻らないと予想される。
		旅行代理店（役員）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、海外旅行の需要回復が予想される。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・中国からのインバウンドの増加が見込まれるほか、マスク着用の見直しや、新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、レジャーマインドの上昇が期待される。
	変わらない	都市型ホテル（客室担当）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行を控え、新年度は人々の解放感も増し、人やお金の流れが活発化しそうな反面、交通機関での値上げなど、物価の上昇が身近に感じられる。
	やや悪くなる	一般小売店〔時計〕（経営者）	・2～3か月先は行楽シーズンとなるが、5月には新型コロナウイルスが5類感染症に移行する見通しである。マスクの着用も見直されるが、気温が上がればマスクを着ける人も少なくなる。個人経営の小さな店舗としては、マスクの着用を求めたいが、その状況が全く想像できない。
スーパー（経理担当）		・4月以降は鉄道運賃の値上げが始まり、電気代やガス代の値上げも予想されることから、食費を中心にした節約意識の高まりは避けられない。春の行楽シーズンを迎え、マスク着用の見直しや、新型コロナウイルスの5類感染症への移行があり、一気に外出が拡大することを期待したいが、所得環境の改善が伴わない。	
企業関連	変わらない	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行もあり、あたかもコロナ禍が収束するような見方が増えつつあるが、本質的には何も変わらず、人流の増加にはつながらない。
雇用関連	やや良くなる	人材派遣会社（役員）	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、経済が正常化に向かうことを期待している。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・国内外のインフレ動向やウクライナ紛争、米中関係の悪化など、今後の景気に影響する不安定要素が引き続き多い。今後の景気はこれらの結果次第で、どちらの方向にも動くと思われる。5月には新型コロナウイルスが5類感染症に移行するが、国民は既にウィズコロナに慣れており、景気への影響は限定的と予想される。
	変わらない	その他雇用の動向を把握できる者	・企業の景況感の見通しが低下し、収益悪化への不安の声も多いことから、やや悪くなる可能性もあるが、足元の状況は、求人にはやや復調に向けた力強さを感じられる。新型コロナウイルスの5類感染症への移行や賃上げのほか、大阪・関西万博の開催に向けた動きといったプラスの要素がうまく作用すれば、求人や求職の活発化が期待される。

「マスク着用の緩和」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良くなる	百貨店（特選品担当）	・中国からの入国規制などが緩和されるほか、国内でもマスク着用の緩和、新型コロナウイルスの5類感染症への移行など、外に出掛けることへの規制は間違いなく緩和が進む。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・ウィズコロナの動きに伴い、脱マスクの生活にシフトする。さらに、季節の変わり目で大手企業の賃上げも進むため、客の購買意欲が高まると期待している。
	やや良くなる	百貨店（売場主任）	・日を追うごとに、客の動きが活発化している。3月13日以降、マスクの着用が自由化されれば、更に来店客が増えそうな勢いを感じる。
		家電量販店（経営者）	・補助金を活用した購入の増加のほか、マスク着用の見直しで消費意欲が高まると期待している。
		高級レストラン（スタッフ）	・マスク着用の緩和など、新型コロナウイルス感染症への対策も緩やかになることで、例年並みのにぎやかな春に戻ってほしい。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行やマスク着用の緩和に加え、これまでの反動から外出する人も増え、お金を使う機会も増えるため、今後は少し良くなっていく。
		都市型ホテル（総務担当）	・5月には新型コロナウイルスが5類感染症に移行する。マスク着用の緩和からも2か月が経過することで、更に人流が活発化するが、以前の水準には戻らないと予想される。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・中国からのインバウンドの増加が見込まれるほか、マスク着用の見直しや、新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、レジャーマインドの上昇が期待される。
	やや悪くなる	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・マスクの着用が見直されても、当社の社内ルールとしては様子見となるが、年度末を迎えて雰囲気は良くなる。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・2～3か月先は行楽シーズンとなるが、5月には新型コロナウイルスが5類感染症に移行する見通しである。マスクの着用も見直されるが、気温が上がればマスクを着ける人も少なくなる。個人経営の小さな店舗としては、マスクの着用を求めたいが、その状況が全く想像できない。
		スーパー（経理担当）	・4月以降は鉄道運賃の値上げが始まり、電気代やガス代の値上げも予想されることから、食費を中心にした節約意識の高まりは避けられない。春の行楽シーズンを迎え、マスク着用の見直しや、新型コロナウイルスの5類感染症への移行があり、一気に外出が拡大することを期待したいが、所得環境の改善が伴わない。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年		22年												23年										
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
現 状 判 断	近畿	42.7	48.2	31.3	34.9	47.0	48.3	37.9	44.5	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6
	(全国)	41.4	47.8	38.1	36.9	45.8	48.1	35.1	42.7	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0
先 行 き 判 断	近畿	51.9	45.9	38.6	48.6	51.8	47.7	44.0	53.9	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7
	(全国)	51.7	48.7	41.7	46.7	51.9	48.2	43.2	56.6	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8

※季節調整値